



のっぽの手

- 2012 年度 新規事業 総括
- 第8回のっぽ・アカデミー開催
- 助成金支援決定の6団体から

2013年4月発行

2012年度 新規事業を振り返る

～各事業からの報告～

チョコラボの実績と事業継続について

24年度福島県地域づくり総合支援事業の助成事業「チョコラボ」も、この3月をもって事業終了となった。この一年間の実績として、利用者は営業日数289日間に対して1,928人、1日平均約6,7人という結果である。これは当初目標の10人には達しなかったものの、7～10月の4か月間は10人を大きく上回るなど大変盛況であった。また、チョコラボでの中小セミナーの開催は延べ30講座(講師30人)で参加者数は207人、1講座当たり平均6,9人であった。さらには、就職や起業等の相談に訪れた方の中から9名の方が何らかの就職や事業のスタートにつながっている。なお、利用者からは「チョコラボ」継続への要望が多く寄せられるとともに、大阪コミュニティ財団による助成支援が決定し、新体制による向う1年間の活動継続ができることとなった。

(報告:担当理事 深田俊雄)

研修参加者91%の進路が決定

3回の研修講座で29名が修了しました。参加者42名のうち91%にあたる38名の方が、就労とボランティア先を決められ、うち4名が起業されました。

福島県地域づくり事業の交流拠点チョコラボへの同居によってネットワークが形成され、目標の達成と予算の有効活用が出来ました。また、佐平ビルの御好意で受講生のみ無料駐車となり、中退者の減少をもたらしました。

スタッフ構成等では課題もありましたので、今後は安定したスタッフ構成の確立、継続雇用で人材育成と協働力をアップできる恒常的事業部門の起ち上げが不可欠と思われます。

(報告:事務局長補佐 半田節彦)

チョコラボ

新たな一歩

新しい公共

～総括～

新しい公共の基盤

整備事業に取り組んで

平成24年度は、NPO等の活動団体の基盤強化を目的に、ほぼフル装備の事業に取り組みました。

基盤整備事業の中には、各種講座・ワークショップ・相談会など数多くの事業が含まれており、丁寧に積み上げていくと膨大な事業になりますが、スタッフの一丸となって、計画した事業はほぼ遂行できたものと評価しています。もちろん改善点も見えてきており、6月のプロ

ポーザルで再チャレンジができれば、さらに質の高い取り組みが可能と自負しています。

(報告:ふくしま NPO ネットワークセンター 理事長 星野珙二)



試練の年度を

乗り切って

平成24年度は、色々な意味において、当センターが成長していくための試練の年であったと思います。走りながら事業を運営していくという、あわただしい年度でもありました。

旧来の市民活動サポートセンターや情報ステーションの管理運営に加えて、県の新しい公共の基盤整備事業、同モデル事業であるチョコラボ運営事業、内閣府から北海道総合調査会経由で降りてきた復興支援型地域社会雇用創造事業等に取り組みましたが、理事、職員スタッフの皆さんの頑張りで、成果を上げながらどうにか乗り切ることができました。皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

(報告:ふくしま NPO ネットワークセンター理事長 星野珙二)

第8回のっぽ・アカデミー/チョコラボ・セミナー

「青い森コミュニティ基金設立の経緯、仕組み、今後の展開」

講師 三澤章氏(一般財団法人「青い森地域創造基金」理事長)

東北各県で、＜民から民へ＞資金を廻す仕組みづくりが活発化している。せんだい・みやぎ NPO センターでは、一般財団法人「さなぶり基金」を発足させている。今回は、遠く青森県の基金づくりへの取組みについて、理事長の三澤章さんをお招きして話を伺った。

県の取り崩し型の基金(たとえば福島県の場合はうつくしま基金)が底をついたこと、新しい公共事業の中で金融支援の委託事業が含まれていることなどから、民から民へ資金を廻すことで地域を支える仕組みを考案し、実際に広く市民からお金を集め、助成金という形で支援を開始している。



ふくしま NPO ネットワークセンターでも、情報収集中であり、時宜を得た研究会となった。三澤さんは、当初 NPO バンクも視野に入れて検討したが、資金規模から言って、どう計算してみてもバンクの自立運営が難しいとの結論に達し、市民から寄付金を集め、良い活動に助成することで、市民の中で資金を廻していくシステムを選択したとのこと。また、一般財団法人にした理由は、NPO 法人が会員を拒めないというリスクを回避するためという説明であった。

(報告:ふくしま NPO ネットワークセンター理事長 星野珙二)



「ファンドレイジング・日本 2013」参加報告



～資金調達術を学ぶ～

3月9日、10日の2日間、東京でファンドレイジングの大会「ファンドレイジング・日本 2013」が開催された。「ファンドレイジング」、最近よく耳にする言葉だが、「何だろう?」と思う方もいるかもしれない。「ファンドレイジング」とは、資金を調達することである。

寄付行為が多く行われた東日本大震災以降、耳にすることが多くなり、昨年には、ファンドレイジングの資格制度がつけられた。そのためか、年に1度行われるこの大会の参加者は年々増加し、今年は1,000人を超えた。私も今回初参加となったが、スケジュールは2日間で、8名の講師から講義を聞くことができる。開始の基調講演以外は同時刻

に7つのテーマで講義があり、その場で講義を選択できるシステムだ。「好きなテーマを選び、好きな講義を聞くことができる」。学びたい人にとっては大満足の2日間である。

私は、シェアハウスをマネジメントするトキワ荘プロジェクトやパブリックスピーチ、ソーシャルメディアなど様々なテーマの講義を受けたが、講義を聞くだけでやる気がでてくるから不思議である。是非、福島にこの講師を呼びたい!そんな気分させられた。

今後、この経験をもとに新たな講座や事業の組み立てにチャレンジしていきたいと思う。

(報告:福島市市民活動サポートセンター

チーフ 内山愛美)

～ふくしま元気市民活動助成金 支援決定の3団体より～

湖南自然塾プロジェクト

郡山市指定屋外活動地域でもある湖南町周辺と猪苗代湖にて、県内外の小学生を対象にして春夏秋冬にあった自然と触れ合う非日常的な自然体験「キャンプ・自炊体験(郷土料理作成)・自然観察・ヨット・カヌー・木工・トレッキング・水遊び・かまくら作り・ツリークライミング等」及び古民家での生活体験などで、同世代の仲間とのふれ合いの環境を提供し、毎週土日限定で4時間程度のカリキュラムで年間を通して課外学習を主とした子育て支援活動を運営します。福島への自然への理解を知って貰える環境を形成したいです。

南相馬市国際交流協会

3. 11 複合災害発生、当会は直ちに被災者支援を始めています。今回の助成金は応急仮設住宅の方々や子ども達の心身の健康を護るのを目的とし期間中4回開催する予定です。第1回目「フィリピン料理で元気になるカフェ」を2月23日に開催しました。50余人の方とパンシッタ・ギーナタン・トロンを食べながらいろんな話をし、よい交流とケアができました。在住フィリピン人が調理を担当で国際的で効果的なカフェになりました。助成金のご支援をありがとうございました。

郡山水と緑の案内人の会

郡山水と緑の案内人の会は、郡山の自然や歴史、伝統文化等を史跡や公園等を巡りながら市民や観光客に案内することを目的に活動しております。具体的には郡山の中心地を、郡山駅周辺を中心としたAコースと、開成山公園周辺を中心としたBコースを設定し案内活動を行っております。また昨年、郡山発展の礎となった安積疏水の流れをたどるコースを開発し「安積疏水ガイドマップ」を作成しバスツアーを企画しました。本年は市民活動助成金を利用して頂き、このツアーをより充実し6月に実施する予定です。

～ふくぎんみんなのサポート市民活動助成金 支援決定の3団体より～

ふるさとの川・荒川づくり協議会

ふるさとの川・荒川づくり協議会は設立15周年を迎えました。荒川は風光明媚、水質日本一の美しい一級河川です。当会は年間を通し福島市内の小学校の環境教育、河川学習に協力しております。市民参加の自然探訪会や土木遺産めぐり、視察会なども開催しております。中・下流において実施しているクリーンアップ大作戦、草刈りやゴミ拾いには多くの市民が参加、荒川の環境調査も年4回実施し、データ化しています。



地域生活支援ネット One One

本法人は第3小学区の学童クラブと、障がいのある子ども達の余暇を支援する事業を行っています。今回福島銀行90周年記念の助成金をいただくこととなり、念願だった映画館を貸し切った障がいのある子ども達を対象とした映画鑑賞会を開催いたします。子ども達一人一人がそれぞれの感性で映画を楽しめる空間を提供し、周囲を気にして気後れしてしまう映画デビューを後押しすると共に、地域の施設を利用することで障がいへの理解・啓発につながることを願っています。

陽だまりハウス

今回の助成により、2月25日から4日間にわたり、福島二中、三中、四中、福島大学において三谷温音楽教室を開催し、約1000名の参加を得て好評でした。今後とも続けていきたい事業です。また、他の事業としては、被災者の借り上げ住宅者の状況調査と支援活動を行うと共に、知らない地域で行う葬儀の相談アドバイスをを行い、今までも希望通りの葬儀を行う事ができたと大変喜ばれています。



キャラクターを考え中 ～まちの駅全国フォーラム in 福島～



新年度を迎え、気持ちも新たに10月開催の全国大会へ向けて準備を進めていきます。

現在は、サブタイトルやキャラクターについてまちの駅関係者にアンケートを実施中です。次回の駅長会議で検討をおこない、実行委員会に提案

する予定です。課題は資金の確保、皆さんからの耳寄りな情報をお待ちしています。

◆チャイルドラインふくしま◆

2月2日～23日まで、チャイルドラインふくしま準備委員会主催の「第一期受け手養成講座」が開催されました。全10回の講座には毎回20名ほどの方が参加され、子どもたちの声を聴くための心構えなどについて学びました。

講座参加終了後のアンケートでは、貴重なお話を聞いた、改めて“聴く”ということについて考えさせられたなど、多くの意見が寄せられました。

今後も講座の開催を予定していますので、興味のある方は次回の講座に是非お申込みください。

—福島市より受託、運営している施設—

●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち 3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL <http://www.f-ssc.jp>

E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

●まちの駅 福島情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL <http://www.machi-fukushima.jp>

E-mail info@machi-fukushima.jp

◆ふくしま市民活動フォーラム 2013◆

2月16日、福島市市民活動サポートセンターに於いて、ふくしまNPO・市民活動団体連携復興プロジェクト会議主催、福島市共催の「ふくしま市民活動フォーラム2013」が開催されました。昨年に続き2回目の開催となるこのフォーラムには、約20の団体が参加、パネルディスカッション、パフォーマンス、展示による活動紹介、特産品の販売など盛りだくさんの催しに福島市民など約250名の来場がありました。

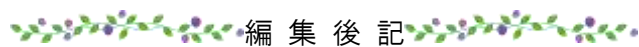
オープンセミナーは、ふくサポ主催で「変わりゆく福島～ニーズと支援・市民活動の成長」をテーマに行われ、活発な意見が交換されました。

◆会員&寄附金募集のお願い◆

ふくしま NPO ネットワークセンターは、NPO・市民活動団体の支援を目的に活動をすすめています。地域社会の問題や課題に取り組んでいる市民生活団体の“元気”と“勇気”を応援します。皆さんも、私たちとともにより良い市民生活をつくりましょう。

●入会／正会員・年間1口 10,000円
準会員・年間1口 5,000円
営利組織 5口以上

●寄附／当法人は「認定NPO法人です。寄付者の方の所得税、法人税の課税について、寄付控除の特例が認められた団体です



✉ また、この季節がやってきましたね。年度変わり忙しいですが…。新しいステキな出会いがあるといいですね！
(事務局・根本靖子)

✉ 今年は花見山に人出が戻って来たとか…。全国からいらした方々が、あの桃源郷に感動したのだろうと思うと嬉しいです。
(事務局・大山亜紀子)

●編集・発行

特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター
〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル 8F
TEL 024-528-1211
FAX 024-528-1218
E-mail center@f-npo.jp
URL <http://www.f-npo.jp/>

